

## 隅田泰生

すだやすお

鹿児島大学大学院理工学研究科教授、株式会社スティックスバイオテック代表取締役

[1956年09月— ]

Knowledge Searcherを使用する



提供: 隅田泰生

### 関連サイト:

- 鹿児島大学大学院理工学研究科
- 株式会社スティックスバイオテック

石川県金沢市出身。1975年、県立金沢泉丘高校を卒業し、大阪大学工学部石油化学科に入学した。79年に同学科を卒業。同年4月、同大学大学院工学研究科石油化学専攻博士前期課程に進む。81年、同前期課程を修了し、同後期課程に進学した。84年に後期課程を修了、工学博士の学位を取得した。同年に日本学術振興会の奨励研究員、85年に摂南大学薬学部薬学科の助手となった。90年から大阪大学理学部化学科助手、94年から同講師、96年2月、同助教授、同年4月、大学院重点化に伴い、同大学大学院理工学研究科化学専攻助教授となった。98年から兵庫医科大学細菌学教室非常勤講師を兼任(2008年まで)。また、科学技術振興機構(JST)技術展開部・研究成果最適移転事業・成果育成プログラム「糖鎖の構造と機能解明のためのチップの開発」(01年から03年)及びプレベンチャー事業「シュガーチップの実用化」(03年から06年)のチームリーダーを兼任した。

2002年4月、鹿児島大学大学院理工学研究科ナノ構造先端材料工学専攻の教授に就任した。同大学工学部生体工学科(09年の改組から化学生命・化学工学専攻)の教授も併任する。

このほか、理化学研究所播磨研究所の連携研究員、鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー施設長、同大学学長補佐、同大学稲盛経営技術アカデミー新産業創出部門長、同大学かごしまルネッサンスアカデミー経営管理コース長などを兼任。2006年9月から、株式会社スティックスバイオテック代表取締役を兼業する。

専門は糖鎖生化学、ナノバイオテクノロジー。2009年、従来の簡易検査キットの約100万分の1という微量のウイルス量を唾液から検出する方法を確立し、新型インフルエンザウイルスを検体採取から30分以内に検出できるシステムの開発に成功した。ウイルスが細胞に感染する際、細胞表面の糖鎖(糖分子が複数個つながった分子)にまず吸着する性質を活用したナノテクノロジーに基づく技術で、インフルエンザの発症前でも感染を確認できるため、重症化の防止や早期の治癒に役立つと注目を集める。インフルエンザ罹患後の職場や学校への復帰のための確認検査方法としても期待されている。

1991年、有機合成化学協会帝人研究企画賞を受賞。94年、バイオメディカルポリマー国際シンポジウム最優秀発表賞に輝く。2003年と08年には、日本化学会欧文誌論文賞を受賞した。

所属学会・協会は、日本化学会、日本生化学会(評議員)、日本糖質学会(理事)、高分子学会、有機合成化学協会、アメリカ化学会、日本細菌学会、日本ウイルス学会、国際内毒素・自然免疫学会、近畿化学工業会など。

[上田千春]

[サイエンス&テクノロジー]

[2010年04月05日配信]

©Shogakukan Inc.

[このページの上に戻る](#)